

南草津エリアまちづくり推進ビジョン(みなくさビジョン)のコンセプト検討

1. 背景・目的

1) みなくさビジョン策定の背景

- ◆JR南草津駅周辺は、駅開業や立命館大学びわこ・くさつキャンパスの開学を契機に市街化が進展し、多様な都市機能が集積し、多くの方々が交流する活力ある市街地として発展
- ◆駅の利用者増による交通渋滞の慢性化や、既存の地域資源や公共施設の連携や活用が不十分
- ◆滋賀県南部エリアの玄関口となり得る草津田上ICや草津PAなど地理的優位性が十分に活かし切れていない状況
- ◆今後の南草津エリア(志津南・矢倉・玉川・南笠東・老上・老上西)のまちづくりの推進の方向性を定めていくためのビジョンの策定が求められる

2) みなくさビジョン策定の趣旨

- ◆従来の「駅周辺エリア」に限らず、その周辺も含む区域(南草津エリア)や地域資源の活用も視野に入れたビジョンを検討
- ◆本市における将来の人口減少局面を視野に入れた中で、南草津エリアの活力や魅力をより一層高めていくため、10年後の令和12(2030)年度を目標年次として設定し取り組む

2. 上位関連計画の位置づけ

1) 第6次草津市総合計画(令和2年度策定予定)

- ◆南草津駅周辺を「にぎわい拠点」、草津JCTおよび草津田上IC周辺を「学術・広域連携拠点」に位置づけ予定 令和14(2032)年度目標

2) 草津市都市計画マスタープラン(令和2年度策定予定)

- ◆南草津駅周辺を「南部中心核」、草津JCTおよび草津田上IC周辺を「複合連携核」、老上西に「地域再生核」を位置づけ予定 令和22(2040)年度目標

3) 草津市立地適正化計画(平成30(2018)年10月)

- ◆南草津駅周辺を都市機能誘導区域(誘導施設:子育て支援施設、図書館、スポーツ施設、大規模商業施設、地域交流センター)、工業系用途および西側商業エリア以外を居住誘導区域に設定 令和21(2039)年度目標

4) 草津市地域公共交通網形成計画(平成30(2018)年10月)

- ◆都市機能誘導区域と生活・交通拠点、広域交通連携エリアといった拠点間を結ぶ基幹軸としての公共交通路線と支線交通・補完交通を設定 令和9(2027)年度目標

5) 草津市版地域再生計画(平成30(2018)年10月)

- ◆生活拠点の形成、交通環境の充実、地域資源を活かした産業の支援を基本方針に設定 令和21(2039)年度目標

6) 草津市健康都市基本計画(平成28(2016)年8月)

- ◆都市計画や公共インフラ整備等における健康に対するアプローチ、個人や地域の主体的な健康づくりの支援等の強化、健康産業の振興や大学・企業等との連携・協働した取組 令和4(2022)年度目標

7) びわこ文化公園都市将来ビジョン(平成24(2012)年8月・県)

- ◆「土地利用」から「機能連携」へ、県内外の人々が交流する場、文化・芸術を創造する場、未来成長へ挑戦する場、歴史と暮らしを紡ぐ場、いのちと健康を支える場という将来像を設定 令和12(2030)年度目標

3. 社会情勢の変化

1) 全国的な少子高齢化・人口減少の進展

- ◆少子高齢化により日本の総人口は平成20(2008)年をピークに減少、令和47(2065)年には約8,808万人にまで減少する見込み
- ◆平成25(2013)年における全国の空き家数820万戸(20年で倍増)、空き地面積1,554km²
- ⇒南草津エリアでは人口は増加しているものの高齢化率が増加
- ⇒高齢化が進む住宅地や立命館大学の一部移転における空き家増加の可能性

2) 防災意識の高まり

- ◆大規模地震、ゲリラ豪雨による水害等、異常気象に伴う災害の多発により、国民の防災意識の高まり
- ⇒広域防災拠点の検討や河川の整備促進等の地域の防災対策

3) 超スマート社会(Society5.0)への変革

- ◆IoTを活用し、必要なモノ、サービスを必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供できる仕組みを構築し、多様化・複雑化するニーズへの対応を可能とする社会への変革

4) 持続可能な環境形成(SDGs)

- ◆平成27(2015)年の国連サミットにて持続可能な開発目標(SDGs)が採択され、国内でも官民による取り組みが進められている
- ⇒大学・企業の立地集積を活かした産・官・学連携によるIoTの活用やSDGsの取り組み

5) 新たなモビリティサービスの推進

- ◆IoT等の活用によるモビリティをシームレスにつなぐ移動サービスとして、交通結節点整備等のまちづくりと連携するMaas等の取り組み
- ⇒南草津エリアの渋滞対策、高齢者や学生等の交通サービスの充実と利用拡大

6) 地域等による主体的取組みの表出

- ◆地域主体によるエリアマネジメント等の取り組みの展開
- ◆民間ノウハウ等を活用したPPP/PFI手法の導入
- ⇒小学校区ごとの地域まちづくりセンターを中心とした取り組み
- ⇒地域、大学、企業、外国人等の交流と人材・ノウハウの活用

7) アフターコロナを見据えた環境形成

- ◆新型コロナウイルスへの対応として、働き方を含めた新しいライフスタイルが模索されるとともに、それらの対応に適した都市空間の環境形成が課題
- ⇒アフターコロナを見据えた働き方・学び方の模索と、それらに適した駅前等の都市空間の環境形成

4. 南草津エリアの現況

1) 人口

①人口の状況・見通し

- ◆市全体の人口は令和12(2030)年の147,400人をピークに減少に転じるが、南草津エリアは平成27(2015)年の59,481人から令和22(2040)年の25年で約6,000人増加し65,400人程度となる見込み
- ◆志津南は6,300人→7,100人(800人増)、矢倉は10,100人→10,900人(800人増)、玉川は15,000人→15,800人(800人増)、南笠東は9,900人→10,600人(700人増)、老上は9,500人→12,400人(2,900人増)、老上西は8,600人→8,600人(増減なし)の見込み

②高齢化の状況・見通し

- ◆高齢化率は平成27(2015)年で7.1%(市全体20.0%、全国26.6%)だが、令和22(2040)年には24.3%に増加する見込み
- ◆志津南は17.3%→24.4%(7.1%増)、矢倉は20.9%→26.5%(5.6%増)、玉川13.6%→22.1%(8.5%増)、南笠東は14.0%→23.3%(9.3%増)、老上は15.2%→23.5%(8.3%増)、老上西は24.5%→28.0%(3.5%増)

③人口・高齢化率の分布

- ◆人口密度40人/ha以上の人口集中地区は、市街化区域における商業施設、工場、公共公益施設を除くほぼ全てと老上西の集落部に分布
- ◆南草津駅周辺や住宅団地が分布する地域の人口密度が特に高い
- ◆高齢化率は20%前後の地域が多いが、比較的早期に整備された丘陵住宅団地(桜ヶ丘、若草)の高齢化率が30~50%と高い

④流入・流出人口

- ◆草津市の平成27(2015)年における流入人口は46,283人、流出人口は36,736人で約1万人の流入超過

⑤大学生数

- ◆立命館大学びわこ・くさつキャンパスに通う大学生は約15,000人で、そのうち約7,300人(約49%)が草津市内居住

2) 土地利用

①区域区分、用途

- ◆市街化区域面積は963ha(62.1%)

- ◆南草津駅周辺や幹線道路沿道は商業系、その周辺を工業系および住居系が分布

②土地利用現況

- ◆都市的土地利用1,065ha(68.6%)、住宅用地338ha(21.8%)、南草津駅周辺や幹線道路沿いの商業用地92ha(5.9%)、大規模な雇用の場となっている工業用地90ha(5.8%)は市全体より割合が高い

3) 都市施設

①道路

- ◆名神・新名神高速道路が東部を通り、草津JCTおよび草津田上ICがある
- ◆南北軸として国道1号および京滋バイパス、山手幹線、大津湖南幹線などがある
- ◆国道1号、平野草津線、大津草津線などの混雑度が高い(混雑度1.25以上)

②公共交通

- ◆南草津駅の乗降客数は県内一位の61,510人(平成30(2018)年)
- ◆近江鉄道バスおよび帝産湖南交通、まめバスが運行
- ◆草津市の主な交通機関は自動車・二輪車、公共交通(鉄道・バス)の分担率は16%程度

③公園

- ◆野路公園、野上公園が未整備の都市計画公園

④公共公益施設

- ◆各学区に地域まちづくりセンターが立地
- ◆びわこ文化公園都市エリアを有し立命館大学などが立地
- ◆フェリエ南草津内の市民交流プラザ、アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)、草津クリアホール、南草津図書館などの公共公益施設が南草津駅前周辺に集積

⑤その他都市施設

- ◆医療施設としては、草津総合病院、(医)芙蓉会南草津病院、びわこ学園医療福祉センター草津、県立精神医療センター、南草津野村病院、近江草津徳洲会病院などが立地し、徒歩圏人口カバー率は92.7%
- ◆大規模商業施設としては、フェリエ南草津のほか、西友南草津店、マツヤスーパー矢倉店、フレンドマート追分店・南草津店、イオンモール草津、スター草津グリーンヒル店などが立地し、徒歩圏人口カバー率は66.9%

5. 既往の市民意向・懇話会・ワークショップ・大学関係の意見

1) 第6次草津市総合計画 アンケート

◆都市のイメージは1位「発展する便利で都会的なまち」（矢倉、老上西1位）、2位「水と緑にあふれた自然豊かなまち」（志津南、老上、南笠東1位）、3位「街道文化の歴史豊かな宿場のまち」（老上西、玉川1位）、4位「大学を活かした若さのあるまち」は市全体より多い

2) 草津市都市計画マスタープラン アンケート

◆「公共交通機関」「安全な交通環境」「歩いて暮らせる市街地形成」「防犯対策」の満足度が低く、重要度が高い
また、老上西では防災・減災についても満足度が低く、重要度が高い

◆めざすべきまちの将来像は1位「災害に強く治安がよい、安全・安心なまち」（志津南、矢倉、老上、老上西、玉川1位）、2位「住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち」、3位「公共交通が充実して利便性が高く、出かけたくなるまち」（南笠東1位）

3) 草津市都市計画マスタープラン 地域別市民会議の課題

◆土地利用は、南草津駅周辺における商業機能集積、福祉拠点の整備、市街化調整区域における拠点形成や幹線道路沿道の土地活用

◆道路は、平野南笠線や大江霊仙寺線など南草津駅へ向かう東西道路の整備充実、浜街道や湖岸道路の整備、渋滞や危険な交差点の解消、通学路の安全対策、歩道・自転車道の整備

◆公園・緑地は、草津川、ロクハ公園の活用促進

◆河川・下水道は、河川環境保全、維持・管理

◆都市防災・防犯は、河川改修、避難所整備、駅周辺の防犯対策

◆都市景観は、東海道、矢橋道等の地域資源、琵琶湖を活かしたまちづくり

◆その他は、ハイウェイオアシスの整備、地域まちづくりセンターの更新

4) 懇話会の意見

①大学・企業を活かしたまちづくり

◆大学のあるまち（大学の技術研究、新技術）を活かしたまちづくり（まちがキャンパス）

◆工場の進出や住宅開発、大学との連携など民間活力を活かした豊かなまちづくり

◆大学内での交流促進、アクセス性の向上、地域の防災拠点化

②地域と学生の交流促進

◆学生と地域住民との交流機会が少ない

◆高齢化率が高い地域などの地域活動を支えるソフト施策、地域交流の充実（アルバイト、ボランティア等）

③安全に暮らせる住環境

◆若者や高齢者一人でも安心して暮らせるまちづくり

◆地産・地育・地癒（老）・地死をコンセプトとした福祉のまち

④駅周辺の魅力づくり

◆滞留空間の創出（オシャレなカフェ、土産や農産物の販売、コワーキングスペース・シェアオフィス、子育て支援施設等）

◆高齢者等の徒歩圏を踏まえた憩いスペースの設置、地域による緑化・管理

◆まちの玄関口としてシンボル化・情報発信

◆子どもから高齢者まで生活・交流できる空間づくり

⑤道路、公共交通の充実

◆駅から大学や病院へ容易に連絡する動線が重要（公共交通の充実や路線の再編、新たな公共交通サービスの検討、渋滞解消）

◆国・県との道路整備の連携が必要

◆歩行者、自転車などが安全に通行できるウォークアブルなまちづくり

◆障がいがある人も施設や公共交通を利用できる空間づくり（バリアフリー化）

⑥地域資源を活かしたにぎわいづくり

◆「ピワイチ」の拠点づくり

◆地域まちづくりセンターを中心とした地域拠点性の充実（商業、医療等）

5) ワークショップの提言

B班（塩見先生）

望ましい社会：域内のFace to Faceの交流が促進されるまち

望ましくない社会：現状維持社会（もっとモータリゼーション）

C班（金先生）

望ましい社会：脱自家用車 × 郊外分散型都市

望ましくない社会：クルマ所有社会 × 駅周辺集約型都市

D班（阿部先生）

望ましい社会：新旧の多様なコミュニティが融合する共生都市

望ましくない社会：まちの消滅に向かう郊外都市
※詳細は参考資料2参照

6) 大学関係の意見

◆学生が地域の課題解決や活性化に協力する場（まちあるき、モノづくり）

◆地域の意見を大学が把握し、専門家の紹介や学生の研究テーマとする仕組みづくり

◆南草津でしかできない学生への助成金等の支援

◆大学を地域の人に活用してもらえる仕組みづくり

◆留学生や社会人経験を有する学生が多い強みを生かす、KIFAとの連携

◆外国語表記など外国人が暮らしやすいまちづくり

◆草津市で就職し定住率を高める

◆J R南草津駅において大学のあるまちとしてインパクトのあるイメージづくり（臙脂色の利用、スポーツ選手のポスター掲示、研究内容の発信など）

◆駅前の公共施設等のコワーキングスペースとして利用

◆大学周辺や市内に学生が気軽に利用できるスポーツ施設

◆3つの大学がある南部エリアに産業クラスターを集積させ、南草津エリアを人が集う玄関口にする

◆コロナ禍での新しい社会システムを構築する研究のトライアルの場として南草津エリアでの実証実験

6. 南草津エリアの課題

課題① 大学や企業の立地集積を活かしたにぎわいのあるまちづくりが必要

◆本エリアの南部では「びわこ文化公園都市」の一部を形成し、草津田上ICや草津PAなどの広域道路ネットワークを有する滋賀県南部の玄関口として地理的優位性を有しているものの、これらを活かした取り組みが不十分となっています。交通結節機能や交流機能を強化するとともに、幹線道路沿道や低未利用地などの土地活用、企業誘致などによるにぎわいのあるまちづくりの促進が重要です。

◆「びわこ文化公園都市」を中心に、立命館大学、本市に隣接した滋賀医科大学や龍谷大学が立地し、各種企業や医療・福祉施設も集積していることから、これら学術・研究・医療・福祉機関等の人材や技術、施設を活かし、本エリアのまちづくりや交流などの活性化につなげていくことが求められます。

課題② 若者から高齢者までが安心して住み続けたいと思える住環境の向上と地域の活性化が必要

◆本エリアでは、今後20年間で約6,000人の人口増が見込まれるものの、その後は人口減少局面が到来することが予測されます。これら将来人口の予測や都市計画、社会基盤（ライフライン）のストック等と調整したうえで、計画的なまちづくりによる住宅地形成を検討しつつ、あわせて既存住宅地においては立地適正化計画に基づいた居住誘導とあわせて住環境の向上を図っていく必要があります。

◆少子高齢化が着実に進行するなか、地域コミュニティや地域活動の維持に向けては、本エリアの特色である大学や企業などにおける様々な人材活用などにより、各地域で安全で質の高い生活を実現するための交流や地域の主体的取り組みの促進が求められます。

◆全国的な防災意識の高まりがみられることから、河川改修や避難所整備などの防災対策の強化や、広域防災拠点の形成などによる防災まちづくりの推進が必要です。

課題③ 各拠点における多様なにぎわいづくりと交流活動の促進が必要

◆南草津駅周辺には、商業機能のほか、市民交流プラザやアーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UDCBK）、草津クリアホールなど、公共公益施設が集積しており、立地適正化計画に基づいた、子育て支援施設や図書館、スポーツ施設、大規模商業施設、地域交流センター等のより一層の立地誘導を図っていくことが必要です。

◆南草津駅周辺においては交流・滞在する空間や仕組みが少ないことから、本エリアの中心として市民や学生、従業者、来街者の交流・滞在を促す魅力のある空間づくりが必要です。

◆にぎわいや健康づくりに資する歩いて暮らせるまちづくりの推進に向け、歩行者や自転車など誰もが利用しやすい環境づくりが必要です。

◆各地域における交流や地域活動を促進するため、地域まちづくりセンター等の拠点機能、多世代交流機能の充実、草津川沿いやロハク公園、未整備都市公園、まちなかの休憩スポット等、水とみどりの環境を活かした憩いの交流空間の創出等が必要で

◆東海道や矢橋道、小野山遺跡、琵琶湖などの地域資源を活かしたまちづくりや景観形成が必要です。

課題④ J R南草津駅を中心とした総合的な交通体系の見直しが必要

◆本エリアの南北軸として国道1号および京滋バイパス、山手幹線、大津湖南幹線がありますが、国道1号等の渋滞緩和策として、山手幹線や大津湖南幹線等の代替ルートの整備の促進が必要です。

◆南北軸に対して東西軸の道路網が弱く、南北軸との接続部などでは交通渋滞が発生しています。平野南笠線や大江霊仙寺線などの未着手都市計画道路の早期事業化が求められます。

◆J R南草津駅の乗降客数は県内1位で平均60,000人を超えており、駅周辺の交通渋滞の解消が課題となっています。これら交通渋滞の解消に加え、大学・企業等への通勤・通学での利用促進、高齢化の進展や低炭素化などの持続可能な環境形成への対応として、大学や交通関連機関と連携した公共交通の充実と利用促進、新たなモビリティの検討など、快適かつ効率的な交通環境の形成が求められます。

参考. 将来像を検討するにあたってのキーワード

①上位関連計画、社会情勢

- ・南草津駅周辺は「にぎわい拠点」「南部中心核」、草津JCTおよび草津田上IC周辺は「学術・広域連携拠点」「複合連携拠点」
- ・地域再生エリアは生活拠点の形成、交通環境の充実、地域資源を活かした産業の支援
- ・健幸都市、びわこ文化公園都市
- ・少子高齢化、防災意識向上、超スマート社会、持続可能な環境形成、新たなモビリティサービス、地域主体、アフターコロナ

②既往の市民意向

- ・発展する便利で都会的、水と緑にあふれた自然豊かな、街道文化の歴史豊かな宿場、大学を活かした若さのあるまち
- ・公共交通の充実、安全な交通環境、歩いて暮らせる市街地形成、防犯対策
- ・災害に強く治安がよい安全・安心、住宅周辺で快適な環境が確保され住みたいと感じる、公共交通が充実して利便性が高く出かけたくなるまち
- ・南草津駅周辺の機能強化、市街化調整区域の拠点形成、沿道の土地活用

③懇話会・大学関係

- ・大学・企業を活かしたまちづくり（大学のあるまち、まちがキャンパス、大学の地域活用、産業の集積、草津市内での就業）
- ・学生と地域の交流促進（学生や専門家の地域への協力、学生への助成）
- ・安全に暮らせる住環境（地産・地育・地癒（老）・地死、外国人も暮らしやすく）
- ・駅周辺の魅力づくり（滞留・交流空間、憩いのスペース、緑化、シンボル化・イメージづくり、情報発信、コワーキングスペース）
- ・道路、公共交通の充実（駅から大学や病院へ、渋滞解消、ウォーカブルなまちづくり、バリアフリー化、多言語化、新たな公共交通の実証実験）
- ・地域資源を活かしたにぎわいづくり（地域の拠点性、ピロイチ、スポーツ施設）

④ワークショップ

- ・域内のFace to Faceの交流促進（駅前の広場化、緑の回廊、地域の拠点形成、南草津駅の機能再編、ドローンによる物流）
- ・脱自家用車×郊外分散型都市（ファーマーズマーケット、〇〇アンドライド、LRT・BRT、水辺の空間、公共交通、郊外に行きたくなる広告）
- ・新旧の多様なコミュニティが融合する共生都市（ロータリー屋根つき広場、シェア市場、バリアフリー化、ミニスマートシティ構想、ハイパー福祉モデル都市、イノベーション創出）

1) 南草津エリアの将来像

(1) 将来像

あふれる地域活力と暮らしやすい環境が共生し、多様な交流によりにぎわうまち「みなくさ」

(2) 目標

目標① 地域活力が持続的にあふれるまち

- 地域の大学・企業が継続し、新たな企業進出等を促進することで、地域で学び・働く多様な機会が創出されるまちを目指します。
- 学術・研究・医療・福祉機関等の人材や技術、施設が地域で活かされ、地域と共生していくまちを目指します。

目標② 誰もが安心・安全に住み続けられるまち

- 安全・安心な住環境を形成し、子どもから高齢者まで将来にわたって地域で住み続けたいと思えるまちを目指します。
- 水と緑の環境や、歴史・文化資源等を保全・活用し、地域で質の高い暮らしが楽しめるまちを目指します。

目標③ 多様な交流が生まれるにぎわいのあるまち

- 多様な滞留・交流活動を展開する魅力的な都市空間を形成し、にぎわいのあるまちを目指します。
- 公共交通の充実や歩いて暮らせるまちづくり、バリアフリー化の促進など、誰もが移動しやすい環境のまちを目指します。

(3) 指標(案)

	平成 30 (2018)年度	令和 12 (2030)年度	
アウト プット 指標	①地域連携交流事業の参加者数	○人	○人
	②立命館大学生の市内居住人口	約 7,300 人	約○人
	③南草津エリアの従業者数	○人	○人
	④南草津エリアの人口 ※平成 27 (2015) 年度国勢調査	59,481 人	○人
	⑤UDCBK 等の駅前拠点の利用者数	○人	○人
	⑥まめバスの利用者数	○人	○人
	⑦混雑率 ※平成 27 (2015) 年度交通センサス(国道1号)	1.40	○
アウト カム 指標	⑧まちに誇れるもの(ブランド)がある	23.1% (21.9%)	○
	⑨住宅地などの住まいの環境がよい	73.5% (69.3%)	○
	⑩公共交通機関の便がよい	43.7% (44.7%)	○
	⑪“まちなか”に魅力がある	33.7% (34.3%)	○

※新型コロナウイルス感染症の流行を考慮し、令和元(2019)年度ではなく、平成30(2018)年度を基準年度とする。(④、⑦を除く)

※アウトカム指標は、平成30年度 草津市のまちづくりについての市民意識調査「まちの住み心地等」において「そう思う」「ややそう思う」と回答した人の割合。上段は南草津エリア、下段の()内は市全体の値。

基本方針① 大学や企業等の立地集積を活かした人材活用と空間形成

- ◆大学の存在感を最大限に発揮してまちの新たな魅力や価値の創造につなげる「大学のあるまちづくり」の視点を織り込んだ取り組みを進めます。
- ◆大学があり都市としての利点をさらに活かしていくために、南草津エリア全体にわたり大学生等が学び、集い、活躍し、地域に貢献するオフキャンパスとしての空間づくりに取り組みます。
- ◆大学や企業、医療・福祉施設などが立地する本エリアでは、その特徴を踏まえ、学術・研究・医療・福祉機関等の人材や技術、施設を地域のまちづくりや交流などの活性化に活用できるよう、産官学連携を促進するまちづくりに取り組みます。

基本方針② 多世代循環型まちづくりの推進と世代を越えた交流の創造

- ◆本エリアで形成されている住宅地の再生や、立地適正化計画に基づく居住誘導、ポテンシャルを活かした計画的なまちづくりのバランスを図りながら、多世代に選ばれ循環する住宅まちづくりに取り組みます。
- ◆世代を越えて多くの方々交流する都市をさらに促進していくために、大学や企業などの人材を活用しつつ、学生などの若者・子育て世代から高齢者、外国人まで様々な世代の人々が集い、支え合う体制づくりと、地域の主体性を醸成するまちづくりに取り組みます。

基本方針③ 滋賀県南部エリアのにぎわい・防災拠点の創出

- ◆本市の交流研究福祉拠点核と位置付けている草津田上ICや草津PA周辺では、道路ネットワークが充実している地理的優位性を活かした土地活用や企業誘致、医療・福祉施設の集積を図るとともに、市、県および関係機関で構成する「草津PAをはじめとするびわこ文化公園都市周辺エリアの活性化に向けた研究会」での議論を踏まえ、滋賀県南部の玄関口として位置付けられるエリアとしての交通結節機能の強化、にぎわいの創出、広域防災拠点形成を図ります。
- ◆本エリア全体においては、地域防災計画に基づき河川改修の促進や避難所整備などの防災対策に継続的に取り組みます。

基本方針④ 地域資源の活用と都市施設等の適切な配置

- ◆東海道や矢橋道、琵琶湖、野路公園および小野山遺跡、農地等の田園環境などの地域資源の活用した都市空間形成や景観形成に取り組みます。
- ◆各地域の拠点となる地域まちづくりセンターとその周辺における機能集約を図るとともに、本エリアの歴史・文化資源、水辺、公園・緑、農地などの環境を活かし、憩いの交流空間の創出に取り組みます。
- ◆本エリアの将来人口や都市構造を見据え、公園等の都市施設やその他公共施設の再編などに取り組みます。

基本方針⑤ JR南草津駅周辺における拠点機能の向上

- ◆立地適正化計画に基づき、子育て支援施設や図書館、スポーツ施設、大規模商業施設、地域交流センターなど都市機能の誘導を図るとともに、既存施設の機能強化やにぎわい創出に向けた活用促進を図ります。
- ◆本エリアの中心として、JR南草津駅周辺における交流・滞在を促す魅力のある空間づくりと、にぎわいや健康づくりに資するウォーカブルなまちづくりの推進に向け、歩行者や自転車の利用促進、バリアフリー化の推進、公共交通の充実など、誰もが利用しやすい環境づくりに取り組みます。
- ◆JR南草津駅周辺における交通渋滞の緩和や本エリア内を結ぶ道路環境の整備、地域や公共交通機関と連携した公共交通機能の充実に取り組みます。

南草津エリア
の課題

① 大学や企業の立地集積を活かしたにぎわいのあるまちづくりが必要

② 若者から高齢者までが安心して住み続けたいと思える居住環境の向上と地域の活性化が必要

③ 各拠点における多様なにぎわいづくりと交流活動の促進が必要

④ JR南草津駅を中心とした総合的な交通体系の見直しが必要

みなくさ地域の将来像

あふれる地域活力と暮らしやすい環境が共生し、多様な交流によりにぎわうまち「みなくさ」

目標① 地域活力が持続的にあふれでるまち

アウトプット指標
① 地域連携交流事業の参加者数
② 立命館大学生の市内居住人口
③ 南草津エリアの従業者数

アウトカム指標
⑧ まちに誇れるもの（ブランド）がある

目標② 誰もが安心・安全に住み続けられるまち

アウトプット指標
④ 南草津エリアの人口

アウトカム指標
⑨ 住宅地などの住まいの環境がよい

目標③ 多様な交流が生まれるにぎわいのあるまち

アウトプット指標
⑤ UDCBK の利用者数
⑥ まめバスの利用者数
⑦ 混雑率

アウトカム指標
⑩ 公共交通機関の便がよい
⑪ “まちなか” に魅力がある

基本方針案

① 大学や企業等の立地集積を活かした人材活用と空間形成

② 多世代循環型まちづくりの推進と世代を越えた交流の創造

③ 滋賀県南部エリアのにぎわい・防災拠点の創出

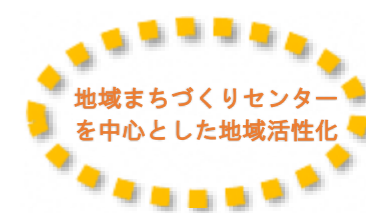
④ 地域資源の活用と都市施設等の適切な配置

⑤ JR南草津駅周辺における拠点機能の向上

施策例

- ア.立命館大学等の大学・企業等の地域に開かれた利活用の促進
- イ.通勤・通学等の利便性向上
- ウ.大学、企業等との連携による地域活動・交流の促進
- ア.立地適正化計画の居住誘導区域における良好な住環境形成
- イ.空き家の適正管理と有効活用の促進
- ウ.特定区域における計画的な土地利用の検討
- エ.地区計画等の活用による住環境の向上
- ア.幹線道路沿道における企業誘致、産業振興の強化
- イ.草津パーキングエリアと連携したびわこ文化公園都市周辺エリアの活性化
- ウ.低未利用地などにおける利活用の検討
- エ.河川改修の促進や避難環境の向上による防災まちづくりの推進
- ア.歴史・文化資源の活用促進
- イ.琵琶湖の資源を活用した地域振興、観光事業の推進
- ウ.琵琶湖岸、草津川、十禅寺川・狼川における親水空間形成
- エ.地域まちづくりセンターの更新と地域再生拠点の形成
- オ.未整備公園の整備や活用促進
- カ.田園環境の保全と農業資源を活かした交流促進
- ア.立地適正化計画における都市機能誘導施設の立地誘導
- イ.JR南草津駅周辺における魅力ある滞留・交流空間の創出
- ウ.JR南草津駅周辺におけるウォーカブルなまちづくりの推進
- エ.バリアフリー化事業の推進
- オ.自転車ネットワーク計画の推進
- カ.(都)山手幹線の整備促進
- キ.未着手都市計画道路の早期実現
- ク.地域や関係事業者と連携した円滑な交通ネットワークの確保
- ケ.JR南草津駅周辺におけるまちなみ形成と情報発信機能の強化

ゾーニング案



エリア内の連携強化



広域からの交流促進



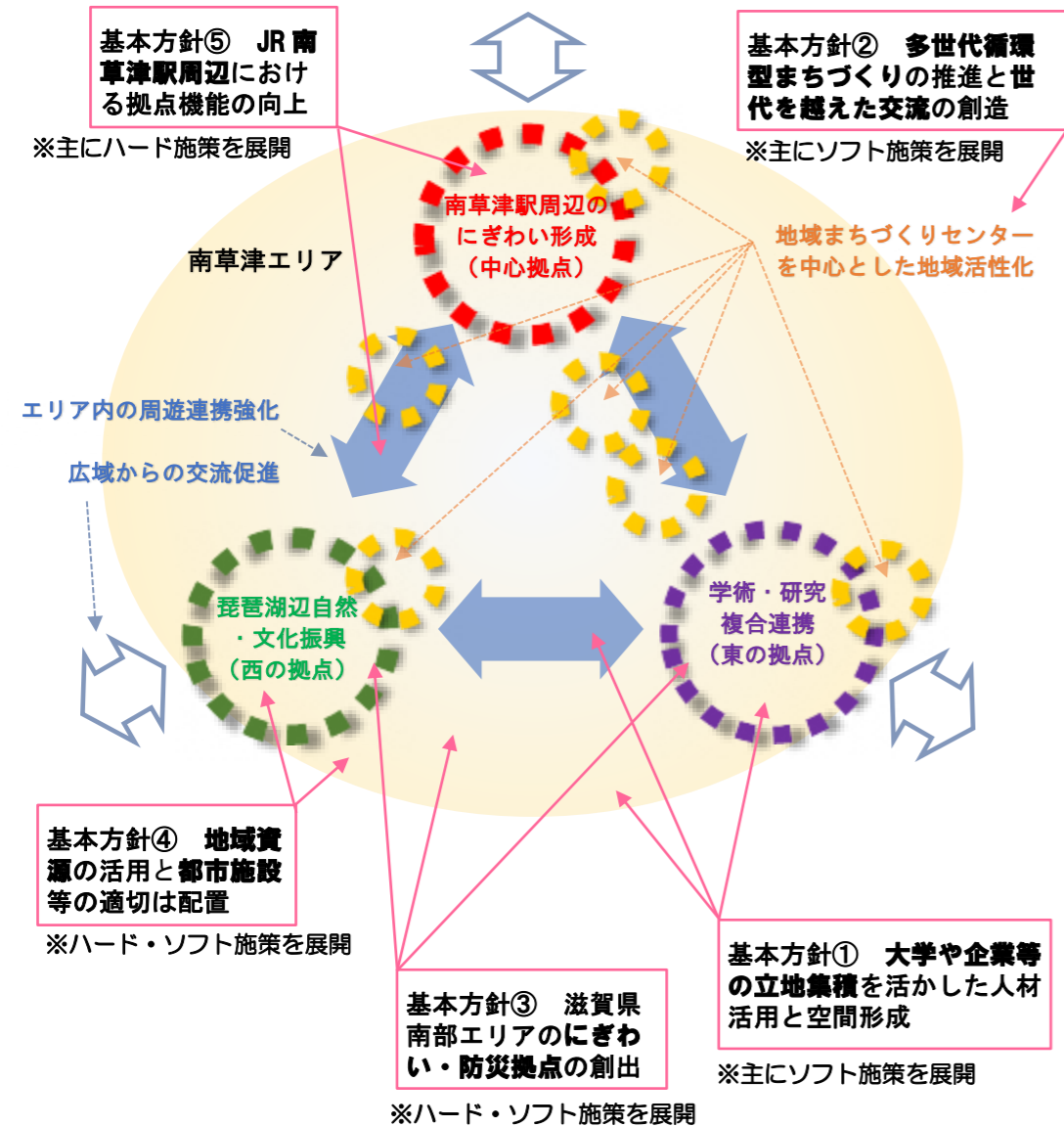
9. ゾーニング案

1) ゾーニングの考え方

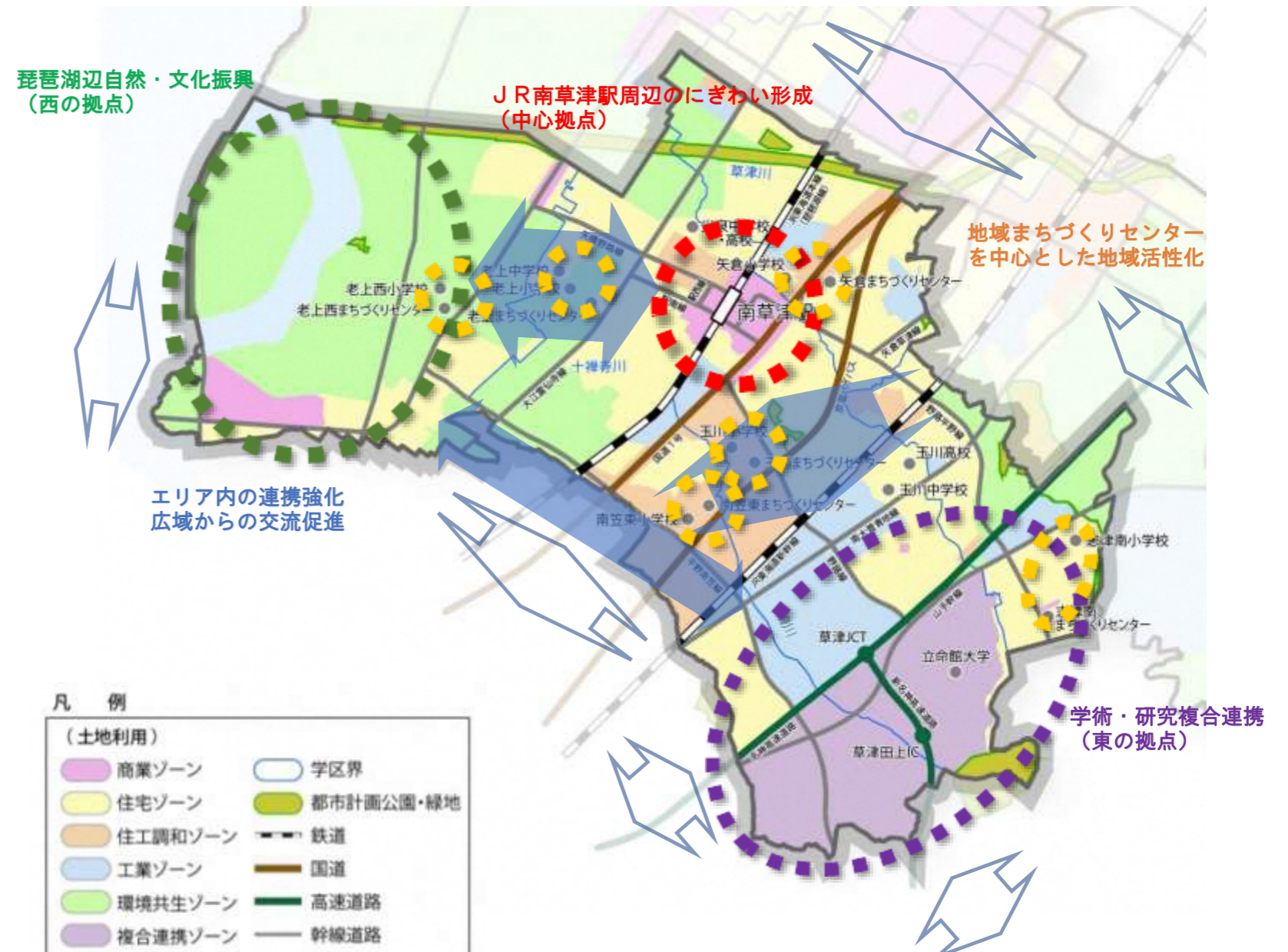
乗降客数が県内一位であり、さまざまな都市機能が集約する「JR南草津駅周辺のにぎわい形成」の中心拠点、名神・新名神高速道路が通る交通の要衝であり、びわこ文化公園都市として、立命館大学をはじめとした産学の集積がみられる「学術・研究複合連携」の東の拠点、琵琶湖を背景とした自然や田園風景、歴史・文化が残る「琵琶湖辺自然・文化振興」の西の拠点の3つの拠点を位置付けます。

また、豊かな水と緑に囲まれた田園環境や住環境を生かし、各学区の地域まちづくりセンターを中心に地域が主体となった多様な交流と安全・安心なまちづくりを促進するとともに、エリア内の連携を強化し、「ひと」「もの」「こと」をつなぐ持続的なネットワークづくりに取り組みます。

参考：基本方針案とゾーニング図の関係



2) ゾーニング図



※土地利用の6つのゾーンは、並行して策定を進めている都市計画マスタープランの位置づけを踏襲しています。

ゾーン(都市計画マスタープラン全体構想(素案)より抜粋)
本市の都市づくりの基本となる土地利用の誘導・規制を促進するにあたり、6つのゾーンを基本とします。

基本方針案	施策例		ゾーニング案				
	施策	主な内容	JR南草津駅周辺のにぎわい形成(中心拠点)	学術・研究複合連携(東の拠点)	琵琶湖辺自然・文化振興(西の拠点)	地域まちづくりセンターを中心とした地域活性化	エリア内の連携強化、広域からの交流促進
基本方針① 大学や企業等の立地集積を活かした人材活用と空間形成	ア.立命館大学等の大学・企業等の地域に開かれた利活用の促進 ←資料1-意見2-1、2-2、5	・立命館大学等の大学・企業等における交流プログラム等における地域利用の促進。 ・びわこ文化公園都市内の各施設の連携による防災拠点化の検討。 ・立命館大学等における、関係機関と協議の上での、適切な土地利用誘導の検討。		○			
	イ.通勤・通学等の利便性向上 ←資料1-意見2-2	・社会実験の結果、関係機関や関係事業者、地域等との協議を踏まえた、通勤・通学の利便性向上。					○
	ウ.大学、企業等との連携による地域活動・交流の促進 ←資料1-意見4、18、21	・JR南草津駅周辺や地域まちづくりセンターなどにおける大学・企業等の地域活動・交流プログラムの実施支援。				○	
基本方針② 多世代循環型まちづくりの推進と世代を越えた交流の創造	ア.立地適正化計画の居住誘導区域における良好な住環境形成 ←資料1-意見17	・立地適正化計画に基づいた居住の誘導と、周辺環境と調和した緑豊かな潤いのある住環境の形成。				○	
	イ.空き家の適正管理と有効活用の促進	・草津市空き家等対策計画に基づいた、防災・衛生・景観等の生活環境に悪影響を及ぼす空き家等の適正管理と有効活用の促進。				○	
	ウ.特定区域における計画的な土地利用の検討	・都市計画法第34条11号の規定に基づく特定区域における、周辺の営農環境と調和した適切な土地利用の指導。				○	
	エ.地区計画等の活用による住環境の向上	・地域主体による地区計画制度の活用や各種協定等の検討と、住環境の質の向上の促進。				○	
基本方針③ 滋賀県南部エリアのにぎわい・防災拠点の創出	ア.幹線道路沿道における企業誘致、産業振興の強化 ←資料1-意見1	・山手幹線などの幹線道路沿道における、用途・容積率の緩和などの検討と、滋賀県の南の玄関口としての地理的優位性を活かした企業誘致、産業振興のための土地利用の促進。		○			
	イ.草津パーキングエリアと連携したびわこ文化公園都市周辺エリアの活性化 ←資料1-意見23	・「草津PAと連携したびわこ文化公園都市周辺エリアの活性化に向けた研究会」における、路線バスや高速バス等の交通結節機能の強化、地域振興施設の設置によるにぎわいの創出、周辺施設と連携した防災拠点の形成などの可能性検討。		○			
	ウ.低未利用地などにおける利活用の検討	・市街化調整区域の低未利用地などにおける、地区計画などを活用した土地活用の検討。			○		
	エ.河川改修の促進や避難環境の向上による防災まちづくりの推進	・県と連携した河川改修や雨水幹線の整備の推進。 ・地域防災計画に基づいた、避難所となる防災公園や指定避難所である小・中・高校等のグラウンドのオープンスペースの確保と、誰もが利用しやすい避難所としての公共施設の環境整備。				○	
基本方針④ 地域資源の活用と都市施設等の適切な配置	ア.歴史・文化資源の活用促進	・野路公園の整備と合わせた、瀬田丘陵生産遺跡群 野路小野山製鉄遺跡の保存・活用。 ・草津市文化財保存活用地域計画等に基づいた周遊ルートの検討。				○	
	イ.琵琶湖の資源を活用した地域振興、観光事業の推進	・琵琶湖の湖辺域における資源を活用した持続可能な地域振興や観光振興の推進。			○		
	ウ.琵琶湖岸、草津川、十禅寺川・狼川における親水空間形成	・連続性のある水とみどりの軸による、景観・環境形成への寄与。 ・県と連携した親水空間の整備促進。			○		
	エ.地域まちづくりセンターの更新と地域再生拠点の形成 ←資料1-意見15、19	・玉川、老上、矢倉学区の地域まちづくりセンターの更新の検討。 ・地域まちづくりセンターを中心とした、周辺における公共施設等の集積と、地域コミュニティの維持。 ・サイクル&バスライドの実施に向けた駐輪場等の整備の検討。 ・草津市版地域再生計画に基づく、各学区のまちづくりプランの策定支援。				○	

基本方針案	施策例		ゾーニング案				
	施策	主な内容	J R南草津駅周辺のにぎわい形成（中心拠点）	学術・研究複合連携（東の拠点）	琵琶湖辺自然・文化振興（西の拠点）	地域まちづくりセンターを中心とした地域活性化	エリア内の連携強化、広域からの交流促進
基本方針④ 地域資源の活用と都市施設等の適切な配置	オ.未整備公園の整備や活用促進	<ul style="list-style-type: none"> 野路公園における、住民参加による公園機能の検討・整備。 ロクハ公園における、地域の意向を踏まえた利活用方法の検討と機能更新。 都市公園等の緑のある空間を活用した健康づくり拠点の形成。 				○	
	カ.田園環境の保全と農業資源を活かした交流促進 ←資料1-意見3	<ul style="list-style-type: none"> 農業振興地域整備計画に基づく優良農用地の保全と、農地や農産物を活かした交流プログラムの実施支援。 			○		
基本方針⑤ J R南草津駅周辺における拠点機能の向上	ア.立地適正化計画における都市機能誘導施設の立地誘導 ←資料1-意見8、12	<ul style="list-style-type: none"> 立地適正化計画に基づいた、J R南草津駅周辺における商業、医療・福祉、教育施設等の都市機能誘導施設の立地誘導の促進。 	○				
	イ.J R南草津駅周辺における魅力ある滞留・交流空間の創出 ←資料1-意見3、7-1、7-2、12、14	<ul style="list-style-type: none"> J R南草津駅東口におけるにぎわいの創出に向けた、官民連携による土地利用の高度化の検討。 フェリエ南草津における、施設の将来像と幅広い視点からの活用方法の検討。 アーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UDCBK）、ミナクサ☆ひろばなどの公共施設における活用促進。 東山道公園における、第3次草津市みどりの基本計画に基づいたPARK-PIの導入による民間活力の活用の検討と、J R南草津駅西口におけるにぎわいの創出。 J R南草津駅西口ロータリーにおける、東山道公園と連携した民間活力の活用の検討。 	○				
	ウ.J R南草津駅周辺におけるウォーカブルなまちづくりの推進 ←資料1-意見6、10、19、20	<ul style="list-style-type: none"> まちなかの回遊性向上や公共交通の利用環境改善に向けた駅前広場の機能強化。 歩行者や自転車におけるJ R南草津駅から周辺の公共施設や各学区へのアクセス性の向上。 	○				
	エ.バリアフリー化事業の推進 ←資料1-意見6、7-1、7-2	<ul style="list-style-type: none"> 草津市バリアフリー基本構想に基づいた、J R南草津駅周辺における重点的なバリアフリー化事業の推進。 	○				
	オ.自転車ネットワーク計画の推進 ←資料1-意見10	<ul style="list-style-type: none"> J R南草津駅およびその周辺の利便性向上のための、J R南草津駅西口における駐輪場の確保。 					○
	カ.（都）山手幹線の整備促進	<ul style="list-style-type: none"> 都市間連携の強化や新たな価値向上に寄与する都市計画道路山手幹線の整備の促進。 					○
	キ.未着手都市計画道路の早期実現	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画道路平野南笠線における、早期実現に向けた県に対する継続要望。 都市計画道路大江霊仙寺線における、大津市と協議による大津市域までの接続検討。 					○
	ク.地域や関係事業者と連携した円滑な交通ネットワークの確保 ←資料1-意見9、11、16、20、22-1、22-2	<ul style="list-style-type: none"> 草津市地域公共交通網形成計画に基づいた、関係事業者と連携した円滑なバス交通ネットワークの確保。 コミュニティバス（まめバス）における、地域や関係事業者と連携した路線改編・増便の実施。 バス交通空白地等での移動手段的確保に向けた、コミュニティバスやデマンド型交通の検討。 					○
	ケ.J R南草津駅周辺におけるまちなみ形成と情報発信機能の強化 ←資料1-意見7-1、7-2、14	<ul style="list-style-type: none"> J R南草津駅周辺における、エリアの顔となるまちなみ形成やイメージづくりと、南草津エリアの情報発信機能の強化。 	○				